

簡易版資料③

地方独立行政法人 北松中央病院 【令和3事業年度の業務実績評価】

◆法人による小項目評価

区分	判断基準
A	目標を大幅に上回って実施している
B	目標を上回って実施している
C	目標を概ね実施している
D	目標をやや下回っている
E	目標を大幅に下回っている

◆佐世保市による小項目評価

区分	判断基準
A	目標の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある（特に市が認める場合）
B	目標の達成に向けて計画を上回って進んでいる
C	目標の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる
D	目標の達成のためにはやや遅れている
E	目標の達成のためには重大な改善事項がある（特に市が認める場合）

◆佐世保市による大項目評価

区分	点数	評価結果
A	5	目標の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある
B	4	目標の達成に向けて計画を上回って進んでいる
C	3	目標の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる
D	2	目標の達成のためにはやや遅れている
E	1	目標の達成のためには重大な改善事項がある

◆佐世保市による全体評価

区分	点数	評価結果
A	5	目標の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある
B	4	目標の達成に向けて計画を上回って進んでいる
C	3	目標の達成に向けて概ね計画どおり進んでいる
D	2	目標の達成のためにはやや遅れている
E	1	目標の達成のためには重大な改善事項がある

●全体評価

C	概ね計画通りに進んでいる
89点 ÷ 29小項目 = 3.07点 ≒ 3点	

大項目	点数	小項目	平均点	評価
1 住民サービス等質の向上	59	19	3	C 概ね計画通り
2 業務運営の改善及び効率化	9	3	3	C 概ね計画通り
3 財務内容の改善	12	4	3	C 概ね計画通り
4 その他業務運営に関する重要事項	9	3	3	C 概ね計画通り
合計	89	29	—	

●評価まとめ（要点）

- 大項目区分の「住民に提供するサービス及びその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置」、「業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」、「財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置」及び「その他業務運営に関する重要事項」は、すべてC評価となった。
- 全体評価についてもC評価となり、北松中央病院の令和3年度の業務実績評価は中期目標・中期計画の達成に向けて概ね計画通り進んでいるという評価結果であり、適正かつ効率的な業務運営に努めていることが確認された。
- なお、令和3年度の年度計画については、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、関連する目標値の設定がなされているものの、その想定を超える新型コロナウイルス感染症の影響があった項目もあるなど、評価においてはその影響も一定考慮している。なお、評価に当たり特徴的であった内容は次のとおり。

医療体制：R3年度の業績においては、様々な場面で新型コロナウイルス感染症の影響を受けた。特に感染症指定医療機関として必要な感染対策を講じつつ、佐世保県北二次医療圏内でも高齢化などにより顕著な医師不足が見られる圏内北部地域において、常勤内科医9名（外科医1名は非常勤）を確保し、地域住民への安定した医療の提供に努めた。また、看護師は若干減少したものの、准看護師・薬剤師・管理栄養士・診療放射線技師・理学療法士・作業療法士などは維持した。

高度専門医療：新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、高い医療レベル維持のため、医師・医療スタッフの研修を行い、透析医療、内視鏡検査・処置、心臓カテーテル検査・治療を継続した。また、高度・専門医療整備のため、移動型X線高電圧発生装置、超音波画像診断装置等の医療機器を導入したことにより、医療の高度化に努めた。

救急医療・介護保険サービス：新型コロナウイルス感染症の対応に追われながらも、一般の救急患者の受け入れ体制を維持し、目標とする救急患者の院内治療の完結率向上にも努めた。訪問看護や居宅介護支援については、利用者アンケートの結果をサービス改善に生かしながら、訪問件数など目標値を上回る実績を上げている。

新型コロナウイルス感染症対応：新型コロナウイルス感染症への対応については、R3年度も佐世保県北二次医療圏の北部地域に1つしかない第2種感染症指定医療機関として、疑いを含む感染患者の受け入れのための病床確保と、その患者受け入れを行った。また、外来診療においても発熱患者に対し積極的に新型コロナウイルス感染症の検査を行い、その感染拡大の防止に努めるなど、地域における中核的役割を果たした。

財務・収支：R3年度の経営においては、患者数が大幅に減少し、入院、外来などの医業収益に大きなダメージを受けた。一方で、感染対策の給与費・材料費などで支出がかさみ、大きな赤字に陥る可能性があった。しかしながら、空床確保に対する補助金をはじめ、新型コロナウイルス感染症対策のための各種補助金などで補てんされた結果、最終的には2.4億円の純利益が生じている。今後、新型コロナウイルス感染症が収束し補助金収入がなくなる一方で、減少した患者数が従来の状態に戻るまでは、厳しい経営が続くことも予想される。

大項目	1 住民サービス等質の向上		
小項目	19項目 (B: 2項目 C: 17項目)		
合計点	59	平均点	3
評価	C 概ね計画通り		

※市通常評価の「－」は最終評価と同じ

小項目	法人	市通常	市最終	点数
① 医療の提供 (地域の実情に応じた医療の提供)	C	D	C	3
② 医療の提供 (高度専門)	C	D	C	3
③ 医療の提供 (救急)	C	D	C	3
④ 医療の提供 (生活習慣病 (予防) への対策)	C	D	C	3
⑤ 医療の提供 (感染症医療・災害対策)	B	D	B	4
⑥ 医療の提供 (リハビリテーションの充実)	C	D	C	3
⑦ 医療の提供 (介護保険サービス)	C	B	B	4
⑧ 医療水準の向上 (医療スタッフの人材確保)	C	－	C	3
⑨ 医療水準の向上 (医療スタッフの専門性及び医療技術の向上)	C	D	C	3
⑩ 医療水準の向上 (医療人材の育成)	C	D	C	3
⑪ 医療水準の向上 (臨床研究の推進・医療の質の向上)	C	－	C	3
⑫ 患者サービスの向上 (待ち時間の改善)	C	－	C	3
⑬ 患者サービスの向上 (院内環境の快適性向上)	C	－	C	3
⑭ 患者サービスの向上 (患者満足度の向上・インフォームド・コンセントの徹底)	C	－	C	3
⑮ 患者サービスの向上 (職員の接遇向上)	C	－	C	3
⑯ 患者サービスの向上 (医療安全対策の実施)	C	－	C	3
⑰ 地域医療機関等との連携 (地域医療機関との連携)	C	－	C	3
⑱ 地域医療機関等との連携 (地域医療への貢献)	C	－	C	3
⑲ 市の施策推進における役割 (市の保健・医療・福祉行政との連携)	C	－	C	3

特記事項 (小項目番号を付しています。)

- ①引き続き内科医9名の常勤医で、入院・外来機能を維持し安定した医療を提供することができた。
- ①患者数は、入院・外来とも対前年度で減少し (入院△26%、外来△4%)、目標を下回っている。主な要因は、新型コロナウイルス感染症の継続的発生に伴う入院制限や長期処方、患者の受診控えによるものである。また、1割は松浦市からの受診であることから、松浦中央病院の影響もあると思われる。透析件数1,116件の減少は松浦中央病院の影響である。
- ①診療単価は、入院・外来ともに上昇している (入院5%、外来2%)。
- ②CTや内視鏡検査装置利用件数は増加したが、MRIや血管造影検査装置などの利用件数は、新型コロナウイルス感染症の影響でいずれも減少した。
- ②移動型X線高電圧発生装置、超音波画像診断装置、DR撮影装置を導入した。
- ③救急患者搬送件数は対前年度で24.3%の減少、時間外外来患者数は1.8%の減少という結果となった。これは、松浦中央病院の影響、コロナ禍での心臓カテーテルの中止が影響している。
- ③院内の2次医療完結率は94.2%で、対前年度で1.6%低下したが、外科手術、心臓カテーテル、かかりつけ医の意向などの影響であると思われる。
- ⑤**感染症指定医療機関として、診療圏でも延べ2,200名以上を発熱外来としての新型コロナウイルス感染症PCR法を中心に診断検査を行い、延べ185名の患者の入院受け入れを行った。**
- ⑥高次医療機関から回復期リハビリテーションが必要な患者を積極的の受け入れ、在宅への復帰を支援した。また、佐世保北部地域で唯一の心臓リハビリセンターを用いて、心筋梗塞や慢性心不全後、大血管手術後の患者の在宅復帰を支援した。
- ⑦**訪問介護等の主要指標を見ると、居宅介護支援事業における居宅稼働件数、訪問看護における訪問件数とも、目標値を大きく上回っている。また、これらの目標値は、外来として来にくい環境下にある広域にわたる地域の患者に対応するために、体制を整えて人員を投入したものである。**
- ⑧医師については、R2年度8名からR3年度には9名へと増員となった。コロナ禍にありながら、貴重な人材の維持確保に努めている。
- ⑧修学資金等の貸付も継続されており、医学生3名、看護学生1名、薬学生1名に修学資金・奨学金を貸し付け、病院で不足する職種の確保に努めている。
- ⑭R3年度も引き続き患者満足度調査を実施し、患者サービスの向上に取り組んだ。その結果、全体の平均点 (5点満点) は4.25点 (R2年度4.22点) とわずかに向上した。

小項目評価抜粋（B評価以上又は法人評価と評価者評価に違いがあるもの）

小項目区分	法人	評価者 最終	評価者の評価内容
⑤医療の提供（感染症 医療・災害対策） 【北 13～15P】	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症指定医療機関として、院内の感染対策を徹底しつつ、新型コロナウイルス感染症の陽性患者を受け入れた。当院の診療圏でも延べ2,200名以上を発熱外来としての新型コロナウイルス感染症PCR法を中心に診断検査を行い、延べ185名の患者の入院受け入れを行った。 ・災害医療訓練の回数については、コロナ禍の中、R3年度は目標値2に対して実績値1と未達であった。ただ、災害拠点病院として重要な役割を完遂できるように小規模ではあったが院内での訓練を実施し、災害に対する知識や技術を深めることができた。また、災害医療研修の回数については、R3年度は目標値2を達成した。 ・指標だけ見ればD評価となるところであるが、本項目では、陽性患者の受け入れを行うとともに、外来診療においても発熱患者に対して積極的に新型コロナウイルス感染症のPCR法による検査を行ったり、地域住民に対するワクチン接種を行ったりして、佐世保県北地域等における中核的役割が実現できている。したがって、適切かつ積極的な取り組みを評価し、B評価とする。
⑦医療の提供（介護保 険サービス） 【北 19～20P】	C	B	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護等の主要指標を見ると、居宅介護支援事業における居宅稼働件数、訪問看護における訪問件数とも、目標値を大きく上回っている。また、これらの目標値は、外来として来にくい環境下にある広域にわたる地域の患者に対応するために、体制を整えて人員を投入したものであり、経営努力として前向きに評価できる。MSW相談件数については、コロナ禍での入院患者数の減少に伴い減少した。 ・情報共有や事例検討などは、これまで定期的な委員会と病棟での多職種との合同カンファレンスに参加してきたが、コロナ禍のため、居宅介護支援、訪問看護、MSW、リハビリ科、外来等で、カルテや院内メールなどを利用して連携をスムーズに進めた。また、居宅介護支援事務所、訪問看護ともに利用者に顧客満足度のアンケートを実施し、利用者の声を聴き、改善すべきところは改善を図った。 ・MSW相談件数がコロナ禍での入院患者数の減少に伴い減少したが、その他は計画を上回って進捗したので、B評価とする。

大項目	2 業務運営の改善及び効率化		
小項目	3項目 (C: 3項目)		
合計点	9	平均点	3
評価	C 概ね計画通り		

※市通常評価の「－」は最終評価と同じ

小項目	法人	市通常	市最終	点数
① 効率的な業務運営と情報公開	C	－	C	3
② 事務部門の専門性の向上	C	－	C	3
③ 職員満足度の向上	C	－	C	3

特記事項 (小項目番号を付しています。)

- ①病院運営戦略会議が計画通り12回開催された。中期計画や年度計画、規程の整備に関する事項など理事会での決定事項については、この会議を通して職員全員に周知徹底されている。
- ②職員の総合力を強化する(スキルアップ)ため、代理での職務を遂行できるようになり、臨機応変に対応することができた。
- ③職員全体の離職率は、9.6%(前年度6.7%)、看護師は8.4%(前年度6.1%)とともに前年度より離職率が増加した(新人看護師の離職者はなし、離職の理由は定年、県外の大病院でのスキルアップ、家人の転勤などである。)

大項目	3 財務内容の改善		
小項目	4 項目 (C: 4 項目)		
合計点	12	平均点	3
評価	C 概ね計画通り		

※市通常評価の「-」は最終評価と同じ

小項目	法人	市 通常	市 最終	点数
① 経営基盤の確立と財務体質の強化	C	B	C	3
② 収益の確保と費用の節減 (収益の確保)	C	B	C	3
③ 収益の確保と費用の節減 (費用の節減)	C	-	C	3
④ 予算・収支計画・資金計画	C	B	C	3

特記事項 (小項目番号を付しています。)

- ①新型コロナウイルス感染症に対する補助金があり、純利益率は8.6% (238,049,261円) となり、目標より295,058,261円の増加となった。また、財務上の健全性は引き続き確保できている。
- ①自己資本比率等財務内容の安全性を示す数値 (自己資本比率、固定長期適合率、流動比率) についてもすべて理想値を超えており、大きな問題点は見られない。
- ②新型コロナウイルス感染症対策のため、入院患者・救急外来の制限などから入院収益は例年に比較して大きく落ち込んだが、新型コロナウイルス感染症に対する補助金により経常収支比率 (109.4%)、営業収支比率 (109.1%) はともに100%を上回る結果となった。
- ③費用節減については、R3年度の材料費比率は14.2%と、目標値は未達であったが、R2年度実績値よりも低下している。
- ③医薬品費比率は10.2%と、R2年度実績値よりもやや上昇した。
- ③後発医薬品採用率 (数量ベース) は、36.3%と、R2年度よりも若干上回っている。
- ③給与費比率はR4年度51.7%と、R2年度実績値53.2%よりも低下した。これは退職者9名の減少を主因としている。

大項目	4 その他業務運営に関する重要事項		
小項目	3項目 (C: 3項目)		
合計点	9	平均点	3
評価	C 概ね計画通り		

※市通常評価の「－」は最終評価と同じ

小項目	法人	市通常	市最終	点数
① 地域医療構想の実現に向けた取組み	C	D	C	3
② 働き方改革の推進	C	－	C	3
③ 災害時における事業継続性の強化	C	－	C	3

特記事項 (小項目番号を付しています。)

- ①令和3年度で入院患者の52.5%、外来患者の51.1%が佐世保市民であり、約半分以上が、松浦市、平戸市、佐々町など、佐世保市民以外の周辺地域の拠点病院として、特に救急医療の受け皿となるなど、その役割を担っている。特に令和2年度以降においては、感染症指定医療機関として新型コロナウイルス感染症の患者受け入れに当たる一方で、一般の救急患者への対応にも努めており、地域にはなくてはならない医療機関としてその存在感を示した。
- ②勤務医等の負担軽減のための検討委員会を毎月開催し、報告、検討を行った。
- ③災害発生後、早期に診療機能を回復できるよう災害医療BCP（業務継続計画）の確認を行った。また、新型コロナウイルス感染症の影響により毎年行っている院内訓練は小規模ではあったが実施し、職員の危機管理意識を継続させた。